

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	No.4	年1回のだよりの配布で事業所の取り組みや研修及び会議などの実施を家族に情報提供するに止まっており、研修や会議の具体的な内容について定期的に公開されていなかった。	3ヶ月に1回(年4回)、事業所だよりを作成して入居者及び入居者家族・運営推進委員・事業所関係者などへ配布する。	<ul style="list-style-type: none"> 作成 担当者を決め年4回(春夏秋冬)事業所だよりをA3用紙で作成 配布先 入居者家族及び入居者、運営推進委員、協力医院、事業所関係者などへ配布 内容 事業所の取り組み(写真含)、会議・研修の実施内容、行事計画などを掲載する 	12ヶ月 (3ヶ月毎)
2	No.20	前年度の目標でもあった、入居者個人の馴染みの人や場所との関係継続の為に取り組みと対策が十分に発揮できず、入居者の思いに十分な援助ができなかった。	入居者の逢いたい人や行きたい場所があれば、思いに応えられるように環境を整え、外出援助に努める。事業所行事に外出や地域ボランティアほか訪問の機会を多く計画して、懐かしい場所や人との関係を継続できるように援助する	<ul style="list-style-type: none"> 入居者家族や知人(友人)の協力と理解を得ながら、本人の希望を叶えられるように仲立ちしていく(依頼者:サービス作成担当者) 入居者と職員間の信頼関係を構築することで、入居者が意思表示しやすい環境を提供し、思いに応えられるように全職員が協力体制を図る(外出時の付添担当者の確保) 事業所行事に入居者家族や知人(友人)と共に過ごすことができる行事計画を立案し実施する(行事案内状を配布し参加依頼) 	12ヶ月 (年間を通して)
3	No.35	災害(火災・地震・水害)において、事業所の一番の弱点は津波である。地震から津波到達まで5分と短い時間で、認知症高齢者(18名)を安全に避難誘導できる場所が事業所周辺(地域)において確保ができていない。	<p>入居者と職員、全員が無事に避難する</p> <p>管理者は、迅速な判断と適切な指示を出す</p>	<ul style="list-style-type: none"> 職員災害緊急時連絡網の伝達を徹底し会議・研修で認識を深める 入居者の基本台帳や連絡網、個々の必要最小限の物品を把握し持ち出し可能な状態に準備する 入居者家族や地域機関、住民の協力と理解を得て、日々、想定外の訓練を実施することで避難経路や場所、誘導方法について準備する(会議や研修を活かした取り組み) 非常食や飲料水の賞味期限を確認し、必要に応じて新しいものと交換する(賞味期限切れ前に非常食の試食をする) 	12ヶ月 (年間を通して)
4					ヶ月
5					ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入して下さい。